

今月の聖句

『あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。』

コリントの信徒への手紙一

第10章13節

◎2月の予定

3日(金) 中学校入学考査(〜4日)

自宅学習日(中)

8日(水) 授業参観(〜9日)

13日(月) 評議員会・理事会

18日(土) 入学説明会

小5 中学校進学について

21日(火) 学年末試験(中)(〜24日)

24日(金) 教職員協議会

◎3月の予定

2日(木) 卒業遠足(中3)

6日(月) 特別時間割期間(〜17日)

16日(木) 給食終了

17日(金) 3学期終業礼拝

教職員協議会

20日(月) 卒業礼拝式予行

21日(火) 卒業礼拝式

マラソン大会

一月二十六日、大磯運動公園にて小合同中でマラソン大会が開催されました。当日は気持ち良いくらいの快晴の下、保護者の方々にも応援していただくことが出来ました。年末から体育の授業内で継続的に長距離走の練習を行ってきた子どもたちも、皆様の声援のおかげで実力以上の結果を出すことが出来たのではないのでしょうか。



◎今月の行事から

○授業参観・保護者会

今学期も密にならないように配慮しながら授業参観と保護者会を行います。まだ気を抜けない部分もありますが、段階的に制限も緩和されてきています。学校で元気に過ごす児童生徒の姿を見ていただき、普段の様子を共有できる貴重な機会となれば幸いです。

○2023年度入学説明会 2月18日(土)

昨年度はオンライン形式で実施していましたが、今年度は実際に来校していただき、感染症対策を徹底した上で海の見えるホールで実施いたします。新入生一同と保護者の方が集う最初の時と場になります。

○学校の様子

二月中旬ともなれば、三学期終業礼拝、卒業礼拝式の日が段々と近づいて来ていることを実感する子が増えています。卒業生に限らず、三学期は各学年、次年度に向けての意識を高めて生活することが求められています。子ども達がそのことを自覚しながら過ごす様子が見られるようになるのもこの時期です。中学校では一年間のまとめとなる学年末試験が二月下旬に控えています。最後まで気を緩めることなく、何よりも体調に気を付け、ベストを尽くしてほしいと願うばかりです。



長く、神奈川県と平塚市の青少年健全育成に関わっています。その中で、最近の子ども達から受ける印象は「素直で真面目」「優しく良い子」が多くなったと思います。周りとの争いを避けて協調性はあるのですが、一方で、「自分の意見は言わない」「言われたことはするが、それ以上のことほしくない」「競争が嫌いで安定を好む」「目立つことを嫌う」といった傾向が増えているように感じています。

他にも、自分達で何かを決めるのが苦手で、「誰かに決めてもらう」「前例にならう」「みんな決めて」といった方法が多く、自然と自らの責任を回避しようとしているのです。こうした傾向は、子ども達の『自己肯定感』が低くなってきた影響だと思っています。

何度か、日本の子ども達の『自己肯定感』の低さは国際比較の中でも表れていることを書かせてもらいました。多くの研究者が原因追求していますが、仮説の域を出していません。

子ども達が自信をなくしてしまう原因は、「叱られてばかり」「挫折経験が多い」ことだと思います。子ども達は、周りの大人から様々な影響を受けて育ちます。この時、叱られてばかりだと子どもの自己肯定感が下がります。叱られることで、「自分はダメだ」「できない」と自分を否定的に思い込んでしまうからです。

もちろん子どもを伸ばす上で、ダメなことを叱ることも大切です。しかし、自分自身の過去と比べて叱ったり、他の子と比べて叱ると子どもの自己肯定感は必ず下がるものです。

また、挫折経験が多いと自信をなくします。自分のレベルに合っていれば多少の挫折経験は克服できますが、自分のレベルよりも遥かに上だと、克服が難しく、自信を失います。

自信をなくした子ども達は、ネガティブな思考が強くなっていき何事にも挑戦できなくなってしまいます。本来、できることもできなくなってしまうたり、せつかくのチャンスを自ら逃したり、潰してしまうのです。

子ども達に自信を持たせるために、「小さな結果を誉める」「小さな挑戦をさせる」ことが大切だと思います。たとえ結果が出ず、良くなかったとしても、それまでの過程や努力を誉めてあげることが大切であって、頑張ったことが誉められることで自信がつくのです。

何かに挑戦しないと、結果は出ません。自信がないと、挑戦する前に悩んで止めてしまうので、失敗を気にせずに背中を押してあげることも大事です。「できた」という経験を積むことで、「やればできる」と思えるのです。

最近、「子どもを叱れない親」と「叱られたことのない子ども」の話が聞きます。叱られてばかりだと、自己肯定感が下がってしまいますが、そうかと言って悪いことをした時に、しっかりと叱らなければ、社会性も身につかず、善悪の区別がつかない子になってしまいます。

- ・ 自分や他人を傷つけることをした時
- ・ 家族以外に迷惑をかける行動をした時
- ・ 法律に触れる行為をした時

- ・ 命の危険がある行動をした時

・ 約束を破った時

こうした時は、きちんと叱る時です。ただし叱り方を間違えると、子どもの自己肯定感が大きく下がるので、絶対にその子自身を叱るのではなくて、間違った行動だけを叱ります。暴力や怒鳴ることは、叱ることではないです。叱り方については年齢別で変えた方が良くと言われます。年齢が上がるにつれて厳しさを増した方が良いでしょう。小学生の頃は優しく、中学生には厳しく言わないといけません。

少子化により家庭でも学校でも、子ども達はより手を掛けられています。子どもの少しの不安も、直ぐに解消させようとするだけでなく、不安を感じないように先回りして対処するようになりました。私達が先回りすることによって、子ども達の考える機会や体験の場を奪い、『依存型』になってしまいます。

だから我慢して『見守る』ことが大切です。失敗して子どもが自ら学ぶまで、口や手を出さずに見守ります。失敗しない方法や効率の良い方法を教えたくもなりますが、それでは「事前にどんな準備が必要か」「どうしたら上手できるか」「上手くないかなかった原因は何か」を考える頭が育ちません。失敗から学び、周りでサポートをして、上手に誉めて叱り、見守ることが、子ども達に必要なと思います。

秋、生活科の授業で昆虫探しを家庭科室前で
行い、オンブバッタやコオロギを捕まえて
いました。すると草むらを尻尾が青いニホン
トカゲがチョロチョロ。

「あ、トカゲだ！」

誰かが叫ぶと、クラス全員で大捕り物の開始
です。全員で追いかけてきましたが、逃げ足が速
いのなんの！トカゲは、あつという間に土蔵
の床下換気口に逃げ込み、顔を何度か出して
安全を確認していました。捕まえることを諦
めきれない一年生と相談し、床下換気口を出
てきた時がチャンスだと確認して待機。待つ
こと数分、体長十センチほどのトカゲを捕獲
することに成功しました。観察を終えたら逃
がそうと思っていました。捕まえたなら飼
いたくなるのが子どもたちの心情です。熱意に
負けてしまった私は、基本的に生きている虫
しか食べないこと、自分たちで餌をとること
を条件にクラスで飼うことにしました。

その次の日から、グラウンドの隅や、教室
前の芝生で虫を探す一年生の姿が見られまし
た。ここまでは良かったのですが：

「先生、コオロギを見つけました」

「いいね、飼育ケースの中に入れてよう」

と子どもに促すと、手に何も持っていない。

「コオロギはどこ？」

と聞くと、教室の前の芝生を指さします。後
で分かりましたが、虫を捕まえられるのは、
十一人中二人だけでした。それから、子ども
たちが下校した後、担任の虫探しが毎日毎日
続いたの言うまでもありません。今では二
匹のニホンカナヘビが増えました。

本を参考にしながら土を入れたり、隠れ家
を作ったりなど、環境整備をしました。また、
トカゲとカナヘビの違いについて学びました。
見た目はつるんとしてヌメリ気があるのがト
カゲ。ゴツゴツした背中がカナヘビ。両方と
もトカゲと言っていた自分が恥ずかしくなり
ます。

トカゲの口を指の先でツンツンすると、餌
と間違えて食いつきます。子どもたちが
「え、痛くないの？」

と聞いてきますが、無理やり剥がさず、口を
開いた時に外せば、痛くありません。歯が無
いので歯形もつきません。少し顎の力が強い
ので、少し口の形が残るくらいです。何か月
も一緒に過ごしていると、トカゲに触ること
ができる子が増え、運よく餌を食べていると
ころを見ることができると、

「口がこんなに開くんだ。」

と気づく子もいました。

そして季節は冬。飼育環境下では、ヒータ
ーを使って冬眠をさせない。自然に近い環境
にコントロールして冬眠をさせる。トカゲの
意思に任せる。この三つの過ごさせ方があり
ます。冬は生餌を捕まえることが難しいこと

を考え、市販の熱処理されたコオロギを与え
てみましたが、見向きもしてくれませんでした。
た。冬眠してくれることを願っていますが、
午前中にチョロチョロと出てくるものが多く、
お腹が減っていないかとても心配です。餌が
豊富になる春まで、頑張つて欲しいと祈つて
います。

さて、昆虫や爬虫類も力を溜め、春を待つ
ように、梅や桜の木も、蕾を膨らませて春を
待っています。キリスト教にもこのような期
節があります。今年は二月二十二日『灰の水
曜日』から始まる大齋節です。イエス様が荒
野で四十日四十夜、悪魔の誘惑を退けたこと
に倣つて、イースターまでの間、自分を見つ
め直す時です。聖ステパノ学園では、『大齋克
己励み表』を行います。

いつも私は、次の聖句を心に刻んでいます。
「そればかりでなく、苦難をも誇りとしませう。
わたしたちは知っています。苦難は忍耐
を、忍耐は練達を、練達は希望を生むという
ことを。希望はわたしたちを欺くことがあり
ません。わたしたちに与えられた聖霊によつ
て、神の愛がわたしたちの心に注がれている
からです。」

(ローマの信徒への手紙 第五章三節～五節)

今が、苦難に満ちた冬のような時であつて
も、神様の愛がある限り、その先に希望があ
ります。神様の愛がいつもあることを知り、
心安らかに生活をできる幸せを分かち合い、
春を待ちたいと考えています。

学習効率と対人力の育み
―タブレット導入から半年―

教諭 金阿彌 勉

ステパノ学園にも二学期からタブレットが導入され約半年経ちました。

お子さんの様子や伝え聞く話から、その学習効果のほどは、どのようにお感じになられているでしょうか。教材使用に関して、子どもたちの習熟の速さは目覚ましいものがありますが、私たち教職員も、外部から講師を招聘しての研修会も行うなど、各教科・領域でより良い活用・実践方法を模索しながら、授業の活性化に取り組んでおります。

私が担当させていただいている「図画工作・美術・技術」の授業でも、さまざまな形で使用しています。

中学校一年生鑑賞授業―古(いにしえ)の美―で、「世界を知ること」で、あらためて日本の良さを知る」というテーマの下、世界各地の模様を調べたり和柄の成り立ちを調べたりという取り組みに、タブレットを活用しました。(授業写真ならびに生徒の活用例参照)

何をもとに考えられた柄なのか(例…松の葉↓松葉模様)、どんな時に使われることが多いかなどを調べ、参考にしながら最終的には自分でオリジナルの模様を考案してみよう、表現を伴った鑑賞活動です。

今までは、カラー印刷のプリントを用意し、カードゲーム形式でどこ地域・国の模様か



☆矢絣(やがすり)

可矢の矢羽様をモチーフにした図案!

2, 世界の柄
フィンランド フィンレイソンのリンゴ柄
ハワイ ハワイの果物柄

参考, フィンレイソンのリンゴ柄で、それがよく馴染んだので描いてみようと思いましたが、そのまま柄をお気に入りのデザインで描くのではなく、『青いりんごを食べさせてみよう』と思い付きました。そしてりんごの色も色々変えました。ごちゃごちゃしてしまうとフィンランドの果物柄がなくなってしまうので、シンプルなデザインにしたいのもアピールポイントです。

を推測し合う形をとっていました。それはそれで、トランプの神経衰弱のようで楽しく盛り上がり、コミュニケーションもあり導入としては良かったのですが、そこから「自分ごと」にする段階が手描きのみで時間もかかり、難しい面もありました。しかし今回は、お気に入りの模様の写真を撮って調べたり、描画機能で構成したりといったことが容易にできるようになり、個々への深まりや学びの広がりが良い形で展開され、大変有用に活用できたと考えています。

しかし、用い方を誤ると、創造性を削いでしまう恐れも多分にあります。ある児童が、(絵を描くために)夕日の色合いが分からない

いと言ってきたので、調べてみようかとタブレットを使わせました。他の児童を指導しながら再びその子を見てみると、画面を開いたまま、同じ色合いで着色していたのです。

ものづくりでまずは真似をすることからという考えもありますが、色彩感覚などの感性を育む場面では、単なる模倣であってはなりません。これは完全な指導の失敗例と心に留めました。観るということはアナログであるべきで、「以前のほうが良かった」と復古主義を唱えているわけではありません。あくまでもツールとして、学びの目的に合う活用ができるかが重要なのです。

最近出会った隈研吾著―建築家になりたい君へ―の中で次のように書かれていました。『人に直接会って、顔をつきあわせて話を聞くことです。直接会うと、本音の話がいろいろ聞けるし、自分とも思えるエピソードもいろいろ話してくれます。実はその部分に、ネットや本から手に入れることができない一番重要な情報がいっていることが多いのです』『直接会うことのメリットのひとつは、そこで人のネットワークができ、それが広がっていくことです』とありました。創り出す人であり、チームの協働で良い仕事を成し遂げ、人のつながり広がり大切にされている隈さんの言葉に共感し、勇気づけられる思いです。学習効率も大事にしつつ、学びの本質を見失わないように、対人力を育んで参りたいと思います。

新型コロナウイルス感染症が日本で初めてニュースになったのは、2020年の2月。

—大型客船ダイヤモンド・プリンセス号内で、人々が次々と得体の知れないウイルスに感染している—と見たニュースでそのような報道がありました。当時あまり余裕のなかった私は、養護教諭であるにも関わらず、正直あまりニュースに関心が湧きませんでした。

しかし、ニュースは連日報道され、さらに報道は目を追うごとにどんどん過熱していきま。そのような状態になって初めて、「映画の世界みたいだな…。ただ事ではないことが起こっているのかも。」と恐怖を覚えました。そしてその矢先、政府から突然の一斉臨時休校の要請。その後、東京都では外出自粛が要請され、有名人が新型コロナウイルスで亡くなり、全国に緊急事態宣言が発令されました。未知のウイルスに対する恐怖心は、私の中で風船が膨らむようにぐんぐんと大きくなっていきま。きつとあの時、多くの人が私と同様の恐怖を感じていたと思います。人と恐怖を共有して不安を軽減しようとすればするほど、それらは大きくなっていきま。

今思えば、あの時の私たちは新型コロナウイルスに感染していなくても、恐怖や不安が伝染してしまっただけだっただけだと思いま。

『情動感染』という言葉があります。他者の感情が、周囲の人の感情にも伝染する現象を意味しま。誰かが笑っているのを見て、つられて笑ってしまったことはありま。また、誰かが泣いているのを見て、もらい泣きをしてしまっただけはありま。緊張している人を見て、つられて緊張してしまっただけはありま。か？

2018年に話題になった平昌オリンピックのカーリング女子日本代表チームは笑顔がとて印象的でした。試合の合間に栄養補給をするもぐもぐタイムも話題になりましたが、『キープスマイル、ステイポジティブ』をローガンに掲げていただけあり、笑顔の多い明るいチームで、あまりカーリングに詳しくない私でも、「このチームはすごくいい雰囲気を見ていて楽しいな、勝ってほしいな、応援したい！」とテレビをつけていた記憶が有。かわいらしい響きの声掛け「そだねー。」も、肯定的で前向きな気持ちになれるいい言葉だ。と気に入っていました。まさに、あれは情動感染というもので、チームの笑顔や明るい気持ちの伝染が起っていたのではないでしようか。

また、友人や周囲の人の幸福度が高ければ、自分の幸福度が6%上昇するという話があります。『幸福の習慣』トム・ラス著、ジム・ハーター著。普段身近にいる家族や友人、職場の同僚などの幸せな気持ちは伝染するよう。反対に、彼らの不幸な気持ちは強け

ればその気持ちも伝染し、自分の幸福度も下がってしま。このように、幸福度が影響を受けるほど、情動感染はとて大きな力を持つています。

大きな影響力を持つ情動感染を知り、私はポジティブな感情にはどんな感染したいと思うようになりま。普段はウイルスなどの感染予防対策に必死に取り組んでいま。が、(情動)感染したいときはどうすればいいか。そのためには、感染源に近づいてみる、つまりポジティブな人の近くに行ってみるといいかもしれま。(※ソーシャルディスタンスはとてくだいね。)

または、逆に自分がポジティブの感染源になってみるのはどうでしようか。自分の笑顔で周りの人が笑顔になると、こちらまで嬉しくな。結果的に自分に返ってきそう。ネガティブにな。てしま。うことも多々ある私自身も、『キープスマイル、ステイポジティブ』を意識して感染源になれるよう生活したいと思いま。

感情の中で特に伝染しやすいのは、残念なことにネガティブな感情だと言われていま。確かに冒頭で触れた新型コロナウイルスに対する恐怖や不安は、今までに感じたことのないくらい急速に大きく膨れ上が。りま。それらを超えるほどのポジティブな嬉しい出来事が起。こ。つて大感染が起きないかな、起。こ。したいなと希望を抱き、ポジティブに生きていき。たいです。

【小学校】

マラソン大会が行われました。

スタート前や走っている時の気持ち、走りきった時の気持ちを作文に書きました。一年生は、初めて作文を書いてみました。



(小3 N・K)

ゴールまでできてうれしかったです。二周は大変だからがんばって走りました。ほごしやもおうえんしてくれて、うれしかったです。たこあげもできてうれしかったです。いっぱい走れてうれしかったです。ほごしやに拍手をしてもらってうれしかったです。ちゃんと走りました。

(小一 S・M)

わたしは昨日、さむい季節になってきましたけど、がんばって1.2キロ走ってゴールできてうれしかったです。たこあげが楽しかったです。すべり台であそべなかつた。

(小一 A・Y)

ぼくは昨日、マラソンを走ってつかれたけどあきらめなかつた。ゴールしてうれしかったです。

(小一 I・O)

ぼくはマラソン大会ではしつた。Yくんのスピードがはやくて、おいつけなかつたです。マラソンのしかつた。

(小一 T・E)

今日マラソン大会でした。走る気持ちがありました。走るのがんばりました。ママが応援してくれました。とてもよくがんばりました。四年生でも走ります。

(小三 S・K)

今日はマラソン大会で、母がきてくれました。なぜか本番だからかいつもよりはやく走れました。とてもたのしいマラソン大会でした。

(小三 W・S)

1月26日に大磯運動公園でマラソン大会をやりました。スタート前、緊張しました。走っている時、後ろが気になって後ろをふり向いて走りました。作戦は、とにかくうでをふりまくるです。結果は二位です。次は一位を目指します。

(小三 Y・H)

今日マラソン大会がありました。スタート前はドキドキしていましたが、みんなががんばれといってくれて、だからドキドキの気持ちはなくなくてがんばって走りました。お父さんも応援してくれました。

(小三 K・R)



今日はマラソン大会でした。最初は足を溜めていましたが、一定の速度を保ったのが勝因だったのか、後半一気に追い上げ、記録は10分20秒でした。練習の最高記録より32秒も速い記録です。とても速く、楽しく走れました。そして、夜に魚べいのテイクアウトでパーティーをしました。美味しかったです。

(小六 S・P)

今日は、マラソン大会だった。今日までして来た練習の成果を出して力尽きるぐらい全力で走って一位にはなれなかつたが、記録も変わり三位になりました。最後の周を走っていて力が出せなくなり三位になってゴールの近くでどうにか力をふりしぼり抜かされずに三位のままゴールできました。これを理由に中学生になったら陸上部に入ろうかと思えます。小学生最後に一位になれなかつたのは悔しいです。

(小六 I・N)

今日、マラソン大会がありました。すごく緊張して、走りました。何で緊張したかという、みんなに見てもらうのが恥ずかしかったからです。走った時は、ふつうの速度で行ったのですが、前回よりも下がって十五位になってしまいました。ちよつと悔しがつたですが、タイムは前回とまったく同じだったのでうれしかったです。来年は中学生になるのもっと成長したいです。

(小六 H・R)

【中学校】 冬晴れの心地良い空気の中、マラソン大会が 行われました。

今日はマラソン大会があり、この日までもとも頑張りました。時が経つにつれ、マラソンへの気持ちも変わっていきました。

最初は練習がとても嫌だったのですが、スピード、記録を縮めるといふ目標が出来てから、練習が好きになりました。



この本番では自分なりに頑張つて走りまわりました。走っている途中で歩いている人もいました。まるで前の自分の姿を見ているようでした。

僕はこの日までに気持ちが大きく変わり、とても楽しく走ることが出来ました。この時までの練習、本番もとても幸せでした。

今回は運動公園で走りました。約1年ぶりの運動公園で嬉しかったです。

走り終わった後には「おつかれさま」などの言葉を先生方や、走り終わった友人に言われて、ちょっと嬉しかったです。

マラソン大会への気持ちは、最初は「嫌い、嫌」でしたが、走り切った時には「楽しい。苦しいけど良いもの。」に変わりました。

自分でも何でここまで気持ちがかかったのか、走り終わった後でも不思議に感じます。

(中一 N・Y)

1月26日、マラソン大会本番。

まだ実感がなかった。自分の脳にはこれが本番



だつてことをわかっていないみたいだ。

風はひんやり冷たく、太陽の日差しは暖かく、寒いのか、暖かいのか、よく分からない天気だった。だが、空は私たちを歓迎してくれたみたいに、雲一つない青空で迎え入れてくれた。私は澄みわたる青空を見て、気が付いたらモチベーションがあがっていて、「天気给力つてすごいものなんだな。」と感じた。

「位置について。」その言葉を聞いてみんな走り出す。今までマラソンのために頑張つてきたことがムダにならないように走り続ける。2周目から「歩きたい。スピード下げたい。」と思つたが、「今ここで歩いたら全部が水の泡になるのは嫌だ。最後まで走り続けよう。」今までの練習で1回も歩かないことはなかった。だから本番に歩かなかったことに結構驚いている。



ちよつとスピードが落ちていた時、「Mちゃん！頑張つて！」そんな声が聞こえた。多分、仲がいい友達のお母さんだと思う。友達のお母さんから応援されるなんて初めてだった。その声を聞いた時、一気にスピードが上がった、ゴールまでずっとそのスピードだった。自分の中での一言が印象に残っている。

ゴール前になると、私は目標に達するために体にあつた全部の体力を使った。結局、その目標には達することはなかった。あと2秒だった。「もつと頑張れば良かった。」と思つたけど、「来年は絶対に目標に達する。」と雲一つない青空で心に決めた。(中一 O・M)



この日のために練習に練習をつみ重ね、ついにきてしまった。マラソン大会が。

足を動かし、体が温まり、太陽の光が僕たちを照らす中、マラソン開始の音が鳴り響いた。僕はとつさに走り出し、前の人をひたすら追いかけていた。このまま走っていると、前回といっしょだ。これじゃだめだ、これじゃだめだと思っていると、足の動きが速くなり、僕は覚醒した。

1度でも足を止めたらもう動けなくなるだろうと思い、必死で走つた。そしたらなんと今まで抜けなかった人たちが抜かすことに成功した。そのまま僕はゴールし、無事に生還した。前回とくらべたら2分以上もタイムが縮まり、14分56秒と15分以内にゴールすることができた。今でも信じられない。みんなのタイムが出された時は驚いた。来年からは、自分に体力をつけてもつとタイムを縮めたい。(中二 R・I)

1月26日にマラソン大会がありました。私は足を打撲していたので、本番は出られませんでしたが、試走の時は出られて最後まで走れたし、これまでの練習も出られたけど、嫌々言いながらも一生懸命練習してきたので本番も出たかったです。本番の日は、走ってきた人の合計を数える係でした。合計を数えながら見る皆の姿がすごくかっこよかったです。自分もこの中の1人になりたいなと心のすみで思っていました。

私は来年中3で最後なので、マラソン大会に絶対に出たいと思つたし、何より、最後までやりとげたいなと思つた。(中二 S・S)



一月下旬に大磯運動公園で開催された本校のマラソン大会は、三年振りに保護者の応援が叶い、多くの参加がありました。

三・一kmのコースを走る中学生は、スタート前にも程良く緊張感が感じられる表情で、熱心に準備を整える様子が見られました。また、ゴールまで懸命に走り続ける姿にも、一人一人が自分のペースと目標を胸に、真剣に取り組む様子が感じられました。

身体も著しい成長期である中学生の中には、関節等に痛みを感じる生徒もいたそうです。ウォーミングアップを終えた段階で痛みが再燃し、大会への参加は見送ることにした生徒は、先生方と共に他の児童生徒のタイムを記す記録係として参加したそうです。運動会等の行事においても、記録や得点集計などの係の仕事を通じて、それぞれが役割を担い、責任を果たすことを大切にする本校の魅力を改めて感じました。

また、大会への参加が悩ましい体調の時にも、無理をせず見送る選択も示して共に考えてくださる体育科の先生や、「リタイアもまた勇氣ある決断でよかったよ」と肯定的に声を掛けてくださる先生、「記録係のお蔭で、どの学年も周回間違いを防ぐことができました。

ありがとう」と、それぞれの状況や役割を認めてくださる先生方の言葉も、日々の学校生活を支えるものと感謝しました。

学年に分かれて一・二km、一・七km、二・二kmのコースを走る小学生は、久々の保護者の応援に満面の笑みで手を振り、純真に張り切る様子が微笑ましく感じられました。スタート前には、伴走される体育科の先生が、ひとりの児童に向け、「今日の体調は、大丈夫？先生もすぐ後ろで走っているから、具合が悪くなったら教えてね」と、腰をかがめて目を合わせ、身振りを交えて声を掛けておられる姿が印象的でした。周りの児童も同様に、お互いに顔を合わせながらその先生の話に耳を傾けている様子もあり、心が和むひと時でした。一人一人への細やかな配慮と、学びにつなげてくださる働きかけに感じ入り、小さなことの積み重ねで成り立つ子ども達の日常を、私達保護者も同じ視線でひとつずつ大切に育みたいと、想いを新たにしました。「小さな働きに大きな愛を」との小川正夫前学園長の言葉が彷彿と思い起こされました。

毎年マラソン大会が近づく時期には、児童生徒の前年度のタイムが改めて伝えられます。前年の自分よりも一歩前に進む自分を意識してゴールを目指す子ども達が、沿道で見守る先生方や保護者の励ましを受けて歩みを進める姿は、人の歩みそのもののようにも感じられ、十年に一度という大寒波による寒さを忘れるような、温かで熱気あふれる時間でした。

STEPHEN'S NEWS

《表彰》

○日本漢字能力検定

五級 中三 伊藤 仁菜

○第69回 大磯一周駅伝大会

総合第四位 団体別準優勝

聖ステパノ学園中学校陸上競技部チーム

一区 二挺木 健太 二区 七尾 陸叶

三区 草次 颯大 四区 大城 志優 錬

五区 中村 起士 六区 澤村 悠人

○第42回 児童文化奨励絵画展

【入選】 小四 沖山 冬真

○第56回

神奈川県中学校美術展

【優良賞】

中二 ギブソン 桃子



「夜の庭」

マラソン大会では、沢山の方々の応援ありがとうございました。子ども達にとって大きな励みとなりました。3学期に入り、練習を重ねる中で子ども達は大きく成長し、大会当日は皆とてもいい顔で走ることができました。ご協力ありがとうございました。(ひ)

発行者 聖ステパノ学園小学校・中学校

校長 佐藤 紀明

〒255-0003 ステパノだより編集委員会

TEL 0463-611-1298

FAX 0463-611-9739

http://www.stephen-oiiso.ed.jp

二〇一三年二月十日(金) 発行第273号